

よみたん民泊協力会ふるさとづくり大賞

団体表彰 - 総務大臣表彰

~地域力の創造・地方の再生~

ふるさとづくり大賞とは

全国各地で、それぞれこころをよせる地域「ふるさと」をより良く しようと頑張る団体・個人を表彰することによりふるさとづくりへ の情熱や想いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを 目的としています。

--総務省地域力創造室--

ふるさとづくり大賞 団体表彰



全国からメンソ~レ~!いちゃりば家族(出会えば家族) ~教育民泊の受け入れを通した村づくりと心の交流~

よみたん民泊協力会

DATA

事 例 名: 全国からメンソ~レ~!いちゃりば家族(出会えば家族) ~教育民泊の受け入れを通した村づくりと心の交流~

よみたん民泊協力会

在 地:沖縄県読谷村字高志保1046番地

絡 先: TEL 098-958-1130 FAX 098-958-1194

直通番号 090-3792-6010 (担当:大城)

ホームページ: https://sks.okinawa.jp/index.php/ service/churamura/education/

取り組みの概要

よみたん教育民泊事業は、2006年に地元の観光事業者(有 限会社沖縄スカイ観光サービス)の地域振興と交流型観光事 業としてスタートした。2008年には受け入れ人数が大幅に 増加したことを背景に、読谷村・読谷村観光協会推進の下、 よみたん民泊協力会が設立した。協力会の主な活動は安心 安全の充実した受け入れ体制づくり、受け入れ先としての 心得について学ぶ講習会などを企画し、自らを高めサポー トし合う組織として活動している。

評価された点

教育民泊という切り口から地域活性化に取り組んでい る。民泊が村民全体活動の中心に位置づけられ、未来 を担う国内外の学生が学び、結果的に地産地消も進む など、「三方よし」の取り組みに仕上がっている。この ような目的意識やターゲットを絞り込んで、そこから 地域独自の活性化策を考えていくことは他地域の参考 になる。

- ●地域内100世帯の民家の協力により民泊事業を展開し ている点を評価。
- ●修学旅行の受け入れなどを完全民間主導及び独自資金 で行っている。コロナ禍前で年間15,000人を受け入 れ、行政や他団体とも良い関係を築きながら自走して いる点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題

その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援

行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2006年~ ・地元の観光事業社である沖縄スカイ観光サービスが交流型観光事業としてスタート。 ・沖縄らしい着 よみたん民泊協力会の設立 地型観光の可 ・受入れ人数の増加に伴い、読谷村における充実した受け入れ態勢の強化を目的とし 2008年10月~ 能性を民泊に て民家による民家の為の組織が設立。 見出す。 ・地元の祭りで地域物産などを販売し、売り上げた20万円を最初の設立資金とした。 順調に実績を 出し始めたが、 会員数及び受け入れ人数が大幅に伸びる 安心安全な民 ・初めて1,000名を超える1,309名 泊を実施する の受け入れ成功。 2009年10月~ 為の受け入れ ・2017年には約100世帯の民家と 側の体制強化 共に年間18.423名の受け入れま が課題だった。 で成長する。 ・入村式や離村式会場と して役場の利用、村三 研修会や講習会の企画がスタート 役からのご挨拶など。 ·応急手当講習会。 2010年~ •消火器訓練。 ·料理講習会。 ·地域学習研修会。 新型コロナウイルスの大流行により観光がストップ ・オンラインを活用した海外 ・危機をチャンスに変え 交流プログラムの実施。 2020年~ る発想で新しい取り組 ・地元若者達との文化交流イ みに挑戦。

ベントの実施。

・共同で農地を利用して、農 業体験を充実化。





活力ある地域づくり復活へ! 受け入れ再開

- ・受け入れた中学校へサプライズ逆訪問!
- ・2年ぶり新年会開催。
- ・新規民家の募集で1年後には改めて80世帯まで増や ていく。



今後の展望

・コロナからの復活へ。

- ・研修会や講習会などの回数を増やし、新規民家募集や会員活動を充実化させる。
- ・次の世代へ民泊交流事業を継承していきます。

受賞者のコメント

コロナ禍後、2023年春からようやく教育民泊も賑わいを 取り戻し始め、再生への一歩を踏み出した中「ふるさとづ くり大賞」を表彰されることは、教育民泊の復活に向けて 「誇り」と「自信」を取り戻し、改めて我々の活動を評価し

2022年~

て頂いたと、大変光栄に存じます。読谷村をはじめ関わる 人々とこの喜びを共にして、これからも全国の若者たちと 沢山の笑顔と思い出づくりをしながら、「学びある教育民 泊」の向上に尽力して参ります。

2024年 02.16(金) 都市センターホテルにて







よみたん民泊協力会

心による交流と村づ

本全国からメンソー うちゃりば家族



ちゅらむら読谷

光平

り対価を頂くことが重要な点であ 業は、ボランティアではなくしっか 生涯学習の場としても民泊交流を楽 寄与している。 額が地域に染み込むよう地域振興に かにし、地産地消を心がけ、ほぼ全 り、受け入れ民家は自らの生活を豊 しんでいる。また、この教育民泊事 い、地域活動にも積極的に参加し、 っている」という意識を共に高め合 く、「自身が読谷観光の最前線に立 家は単に学生を宿泊させるのではな このスローガンの下、受け入れ民

インバウンドの受け入れ

民泊受け入れ勉強会

入村式

修学旅行生との写真

整備に努めて 施するための 全な民泊を実 おり、安心安 正式に定めて

係を築き、連携しながら自走し続け に協力を頂き、他団体とも良好な関 ている団体である。

沖縄県読谷村

三つのスローガンで理念共有

三つのスローガンを掲げて活動して よみたん民泊協力会では、大きく

- •我々は、教育的責任を全うします。
- 我々は、学び続けます。

・我々は、社会に良い影響を与えます。

会が設立された。民泊協力会の設立 る強化を目的に、よみたん民泊協力 る安心安全な受け入れ態勢のさらな

協力会は、持続的な組織運営を行 うため、『よ

みたん民泊協

力会規約』を

観光プログラムとしてスタートし 沖縄スカイ観光サービス)の交流型 6年に地元の観光事業者(有限会社

と沖縄の青空が映える読谷村役場

を迎え入れる入村式では、琉球赤瓦

など、村を挙げての歓迎ムード作り で、村長をはじめ村三役による挨拶 までに成長した。また、修学旅行生 年間18000人以上を受け入れる れ2017年までに約100世帯で 後、民家の結束・協力関係が構築さ

た。2008年には、読谷村におけ

ば」の意味である。

よみたん教育民泊事業は、200

ゃい!」、「いちゃりば」は「出合え

「メンソーレー!」は「いらっし

年間1万8千人受け入れ約100世帯で

これからの挑戦

け入れ体制を強化していく。 村で交流と学びを深められるよう受 を担う国内外の学生たちがここ読谷 の受け入れを強化し、今また、未来 せることなく、さらにインバウンド 積み重ねてきたつながりを途絶えさ 日本全国の修学旅行生との交流で

監査員を選任し、民家主体組織とし ており、当協力会とは両輪の関係で の間を取り持つ事務局として機能し 全国の旅行会社や学校と民泊協力会 た『ちゅらむら読谷』部門を設置し、 ビスは社内に地域観光事業に特化し 事業会社である沖縄スカイ観光サー ての土台を構築している。立ち上げ いる。会長を含む役員、幹事、会計

海外学生との交流もコロナ禍での取り組み

や芋掘り体験ができる環境を整え を整備することで、サトウキビ体験 極的に実施してきた。また、休耕地 の学生との交流プログラムなどを積 や、オンラインを活用した海外各国 村のおじぃおばぁの交流イベント ストップする中、地元の若者と読谷 ナウイルスの影響により交流観光が 観光×農業」を実践している。 2020年から始まった新型コロ